



●いきなり3館合築問題が浮上

駅近に1300人規模の文化ホールの建設と全市的な見地での文化施設のあり方を…

田無駅近くの市民会館（公会堂）の老朽化が進み、あと数年で50年の耐用年数が到来する事態となった。その事態をきっかけに、同会館の建て替えを機に田無庁舎に隣接している中央図書館と田無公民館（この2館は耐用年数があと10年）を移設して3館合築複合化案が急浮上した。

3館合築複合化は既に他の多くの市区で見られ、利用する市民からは利便性の点からも歓迎されているものの、施設の充実性や利便性は欠かせない重要なポイントになっている。

当市は旧田無市と旧保谷市が合併して10数年を経過し20万都市となったが、合併以来庁舎統合問題等が積年の重要な懸案事項となっている。その中であって文化施設の要である市民会館や中央図書館、公民館は全市的な視野で見直す必要があり、単なる建て替え問題や総量抑制だけの視点からの計画は将来的に大きな禍根を残すことになりかねない。

現在の中央図書館は手狭なうえ「中央図書館」の機能を充分果たしていない現状があり、同館と公民館、市民会館をそれぞれ3分の2に縮小する計画に至っては文化軽視の批判に耐えられないものであると言える。



「ワンコイン文化交流会」でも多彩な議論が続出！

昨年暮れに開催された当振興会の「ワンコイン文化交流会～文化施設のあり方を考える～」(15.12.6 於：保谷こもれびホール)でも活発な意見が交わされた。市民会館の耐震性はかなり良くあと10年は使えると聞いている、市民の利用も多い中で急遽合築問題が出てきた。もっと地元での文化を育てることを構想しつつ考える問題ではないか、会館をはじめ市民が最も多く利用する文化的重要施設を、狭い敷地に無理やり押し込むようなことはあまりにも唐突で乱暴な提案だ…、等々。一案ではあるが中央図書館はいこいの森やその周辺（東大農場等を含め）、泉小学校跡地等、余裕のある敷地に建てるべきで、現在地には分館（分室）で残して「中央図書館」は機能的にも文化的シンボルに相応しい施設が望まれる等が一提案として出された。また当市においても高齢化社会が進む一方、他市区には優るとも劣らない文化活動が盛んで、居住地での文化施設のより一層の充実を望んでいる市民も多い。またこれらの事情に加え都心部のホール事情が年々減少（閉館・改修等）傾向にあり、駅近（田無庁舎近辺）に1300人規模の文化ホール建設を望む声も少なくない。近年では民間の活力を活用した複合施設（豊島区役所や千葉県鎌ケ谷市ほか）の事例が各地で成功しており、自治体の財政難の解決にも貢献している状況があり、当市でも耐用年数到来した建物を単純に建て替え、縮小化を進めるのではなく、将来的展望を見据えた禍根のない積極的な計画、対応が切に望まれるものである。

●【重要なお知らせ】

「市民と文化」前号にてお知らせいたしました、市内文化団体の情報集約発信サイト「Art Fields of Nishi Tokyo」について、西東京文化芸術振興会は、諸般の事情により今後一切関与せず、また、当該サイトの運営業者とは一切関係がありません。